

青梅市文化財ニュース

第 3 7 2 号

平成 3 0 年 1 0 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

イソヒヨドリと青梅商店街

イソヒヨドリは、その名の通り海岸付近の岩場などで多く観察されます。ヒヨドリと似ているので「磯のヒヨドリ」ということでイソヒヨドリと呼ばれますが、ヒヨドリの仲間ではなく、ツグミの仲間です。大きさは 23 c m ほどでヒヨドリより少し小さいです。オスは頭部から胸までと背面が鮮やかな青色で、翼は黒色、腹はレンガ色をしています。メスは頭部から背面が灰褐色で、喉と腹は淡い黄褐色で、うろこ模様があります。オスに比べて全体に茶色です。「ホイピーチョイチョイツツピーポー」など美しいよく響く声でさえずります。地上で餌を探し、甲殻類や昆虫類などを食べる雑食性です。



旧りそな銀行駐車場付近。餌運び中のオス

磯に住んでいたはずのこのイソヒヨドリが、10 年ほどの間に内陸部の市街地で営巣し、留鳥（1 年中見られる鳥）となって生活するようになりました。海岸線と全く違う環境をなぜ選んだのでしょうか。

イソヒヨドリは、冬期になると暖地に移動する個体があります。奥多摩湖のダムサイトや小作堰などでも冬期に観察できました。多摩川周辺で生活するうちに、コンクリートの建物を磯の岸壁に見立てたと考えられます。また、餌は雑食性なので磯でなくても困らなかったのです。

私が初めてイソヒヨドリを見たのは 14 年前の 5 月。消防車が置いてある仲町会館の屋上でさえずっていました。営巣を決定付けたのは、2010 年 5 月に仲町の民家庭先でメスが巣材を運び、オスが近くで見守っていたときでした。巣材は小枝や草などで、東方向へ飛び去って行きました。この年は、仲町商店街で昆虫を啜ったオスが巣立ちを促しているのを確認しているので、営巣はうまくいったのではないかと思います。2016 年 6 月には、上町の民家の屋根で幼鳥を、近くの電線で成鳥オスを見ました。この年も営巣は成功したようです。

2018 年 5 月の繁殖シーズン

駅前セブンイレブンがある建物には、ムクドリが数羽で営巣しています。スズメも混じっています。青果物店「やおうめ」がある建物の屋上には、イワツバメが集団で営巣しています。駅やトイレにはツバメが営巣しています。旧長崎屋ビルの屋上には、ハシブトガラスの巣があります。ムクドリ、イワツバメとの攻防が絶えません。ある時、ロータリーのツツジの上にスズメが1羽。タカの仲間のツミがさっと持ち去りました。周辺の緑地で営巣しているツミかもしれません。ハクセキレイやキセキレイのさえずりも聞こえます。そんな中でイソヒヨドリもさえずります。

夕方になると、スズメたちがイチョウに集まります。集団でねぐらを取るのです。キヨスク前のクスノキにはハクセキレイが集団でねぐらを取ります。古い町並みは野鳥にとっても住みやすい環境なのです。

(文責 荒井悦子)



イワツバメが屋上に集団営巣。
数年後には無くなる予定の建物



ムクドリとスズメが営巣する建物